○○○○日英關稅戰の火花が散る○○○○

# 世界的通商破局は英國の重大な責任

## 有効適切なる措置を講ぜよ

## わが外務省語る

（東京十日發國通）外務當局は日英關係につき十日非公式に左の如く語つた

帝國政府の聯盟脫退後の外交方針については去る三月二十七日の詔書に明かな如く列國とはあくまで

『親善』關係を續けて行き度いと考へてゐた、政府としては別に英國と此際別れるとか又アメリカと特に親しくするといふ如き意思はないが、世界人口の四分の一を擁する領土を持つ英國が日本品に對し禁止的關稅を課し、且つ日本に工業原料を供給しないとするならば日本としては事生活に關する問題だから之が對策を樹てねばならぬことは當然だ、我國は今後とも各國と親善政策を採る點にかわりなく既にオランダとも仲裁條約を締結せる如く各國と平和保障關係を

『樹立』する方針である然し英國が依然として今日の如き經濟政策を棄てぬなら、世界的通商の破局は英國に重大な責任がある、此際日英兩國の感情を損はざらやう英國が有効適切な措置を講ずべきことを希望してやまぬ

## 宇垣總督 陸相訪問

（東京十日發國通）宇垣總督は十二日午前十時陸相官邸で荒木陸相と會見した、一部では右會見で荒木と宇垣との提携が策されんと傳へてゐるが荒木としては陸軍部內の問題に就き宇垣と提携或は諒解すべき問題は何もないと言明してゐる

# 其責は英國に

## わが外務省聲明

（東京十日發國通）十日外務省は最近英印兩政府が相呼應して全面的に關稅戰爭を挑發しつゝあるに對し、これが爲め我國が國民的感情を刺戟し、ために兩國の國民的衝突を來し延いては世界的破局を招來するも其の責は英國が負ふべきであると聲明を發表した

## 印度の當業者から

# 直接協議申込

## わが外務省受諾せん

（東京十日發國通）シムラの三宅總領事より十日外務省へ到着せる公電に依ればロンドンでサイモン外相との間に設置することにした日英民間協議會の別動隊としてシムラでも印度當業者が日本側當業者と日印貿易問題に限り協議を行ひ度き意向を正式に通達して來たと、右に對し我が外務省は別に拒むべき理由なきを以て之を應諾政府側の折衝と平行して協議が進められることにならう

# 英國の暴擧は世界協調無視

## 國民同盟の決議

（東京十日發國通）國民同盟全体會議は今日午後本部で左の決議を可決した

英國政府がオツタワ協定を盾に關稅引上を强行し、屬領植民地封鎖政策を執れるは、軍縮經濟兩世界會議に對する世界の努力に逆行する不誠意の發露たるのみならず、印度產業保護に名を借りて老朽品の使用を印度に强制し、三億大衆を搾取せんとする非人道的行動であつて、若し各國間の經濟戰爭を誘致せばその責は全然英國が負ふ可きである、國民同盟は英國政府の反省を促し、英國側の暴擧に抗爭すべく外交上經濟上の手段をつくさん事を主張する

## 澤田節藏氏 シムラに派遣

（東京十日發國通）日英通商條約破棄の善後處置協議のため印度シムラに派遣する帝國代表は目下歸京中の澤田節藏氏を起用するに內定、十日正午重光次官は澤田氏と會見して內諾を得たので十三日の閣議に附議決定を見る筈

## シャム皇甥 日本に留學

（門司十日發國通）シャム皇帝の甥チャンタナカタブラバル殿下以下六名の留學生が十日門司入港のはたびや丸で來朝した、先づみつちり日本語を勉強して相當年限留學する豫定である

## 空の勇士 陸相と對面

（東京十日發國通）昨日東京に飛來したフィンランド飛行家ブレイメイル大尉はフィンランド公使に伴はれ各省を歷訪、特に荒木陸相に敬意を表した

# 久原、安達の提携が成るか

## 危機に面した政友

（東京十日發國通）政友部內動搖益々熾烈を極め動もすれば分裂の危機に陷らんとしてゐる折柄一國一黨の主唱者久原房之助氏、安達派同總裁に最近長島隆二、松岡洋右氏等を介し兩派の合流が畫策、同亦政友の分裂今や目睫に迫れりとなし、極力提携の機會到來を待望の實狀たるので近くは行はれる鈴木總裁の對政府態度の決定裁斷如何では久原一派は愈々最後的手段に出づるやも計られず、假に一時的に黨內が鎮靜しても久原の政治的意見絕對不變と稱されてゐるので、久原對安達の提携は時期の問題とさへ見る向もある

# 非常時局は未だ解消せず

## 擧國一致派の聲明

（東京十日發國通）擧國一致內閣の成立を目標とし紛爭中の政友會に一大衝動を惹起した所謂擧國一致派は十日午後六時芝紅葉館に同派の第一回世話人會を開き時局問題等で意見の交換の結果

一、非常時未だ解消せざること

一、非常時局を擁護するものは擧國一致內閣たること

一、政黨改革の急務たること

等を骨子とする長文の聲明書を發表し同九時散會した

## 望月氏の乘出し 往來繁し

（東京三日發國通）政友會の望月長老は二日鈴木總裁の訪問を受けて、黨內取纏めを依賴されたので、同氏をめぐる政友會諸氏の往來は頗る注目される事となつたが、秋田顧問は二日正午同氏を私邸に訪問し、長時間に亘り要談を遂げ、續いて床次顧問を訪ひ約一時間半に亘り同氏と會談、又內田信也氏は、同二時五十分自重派の殿園、東等の諸氏及倉元要一氏等も望月氏を訪問、種々懇談した、以上の會見で、望月氏は解体等の危機をも察知したので、愈々黨內の意向取纏め積極的活動を開始することゝなつた

# 駐米大使に松方幸次郎氏

## ―外務省の意見一致―

（東京十日發國通）外務省に於ては對米外交の重要性に鑑み此の際出淵大使に代る有力者を詮衡中だつたが、松方幸次郎氏を起用するに大体意見一致し目下交涉中の模樣である民間から大使を選拔するは近來稀な事で注目されてゐる

## 出る幕ではない 松方氏語る

（東京十日發國通）大使に擬せられてゐる松方幸次郎氏は元氣に訪問の記者に語つた

大使の話なぞ全然ない、俺の樣なルンペンがならなくても出る人は澤山あるじやないか

# 理論鬪爭中止

## 兩派委員の協議

（東京十日發國通）望月圭介、山本條太郎、山本悌二郎の三長老は急進、自重兩派の停戰交涉に乘出したが、之に先立ち急進派は午前十時會合鈴木總裁が幹部會の決議を尊重して裁斷を下すを確信し、總裁の裁斷に絕對服從し停戰命令は自重派が應諾する場合は急進派も之に應ず、黨の長老と雖も總裁の裁斷を制止するを許さずと決議した、自重派も三緣亭で午前十時會合

兩派の理論は既に明瞭故に同席して論鬪しても理論鬪爭を繰り返すに過ぎずといふに意見一致、結局自重派木下晴太郎氏他二名、急進派砂田重政氏他二名が豫備交涉委員に選出され兩派六名午後一時三十分一室に會合、[illegible]したが、兩派とも讓らず尙協議中である

## 書院旅行隊 着京

全滿に亘り政治、經濟の各方面に亘つて調查を實施せんとする東亞同文書院學生八十四名は小竹教授引卒の下に十日午後三時三十分着京直ちに協和旅館その他に分宿したが、同學生はそれぞれ數班に分れ純然たる學生の手で三ケ月調查資料を蒐集する筈であるが調查の結果は各方面より注目されてゐる

## 船舶安全法 けふより實施

（東京十日發國通）六十四議會を通過した船舶安全法は十一日から實施されるにつき遞信省では準備手續きを進めてゐるが船舶航行安全施設の一つとして海難警報の自動受信裝置の設備を研究中である

## 大阪商船 大連增航

大阪商船會社では日滿連絡の圓滑を期する爲め曩きにたこま丸しあとる丸の兩船を大連各就航路に增配したが尙七月以降各就航船大阪碇泊日數を一日短縮し從來の月二十回發船を二十三回に增し尙これと共に從來大連より神戶に直航して居たたこま丸及しあとる丸を往復共門司に寄港せしむる事となつた

# 全國鑛業會議の議事日程決る

## あすから自治會館で開く

滿洲國の鑛務行政を確立する全國鑛業會議は來る十二日から十四日迄三日間自治會館に開催されることになつたが日程及議事事項は左の如し

△第一日　豫備會議

△第二日　正式會議

總長訓辭、農鑛司長、鑛務課長等の挨拶あつて後議事に入り

一、新鑛業法事項

二、鑛業行政事項

三、舊鑛業權整理事項

△第三日

四、實辦鑛業事項

五、鑛業資源調查事項

六、鑛業開發及統制事項

七、鑛業金融事項

八、鑛業監督事項

九、鑛業指導機關

十、鑛業教育機關

十一、實業部と各省實業廳との連絡事項

尙本會議の出席者は、實業部總長、農鑛司長本部關係技術者並びに各省實業廳長である

## プラタップ氏 ハルビン着

（ハルビン十日發國通）アフガニスタン志士プラタップ氏は豫定より早く十日午後二時ナイル氏と共にハルビン著、直ちに北滿ホテルに入つた、尙一行は、十一日講演會及懇談會（協和會主催）を開き十二日ハルビン發新京へ十三日午前十時溥儀執政に謁見の豫定である



# 反蔣實は赤化

## 馮が獨立の裏面

## 支那軍政當局極度に狼狽

（北平十日發國通）馮玉祥が張家口で獨立して以來既に二週間表面反蔣抗日の旗幟を掲げて居るがそれは頗る疑問とされ、馮の眞意については各方面注目の的となつて居た處昨日彼一派の宣傳物が多數當地に輸送され軍事分會の手で沒收された結果、漸く判明した、即ち、右宣傳文によると民衆抗日同盟軍のモットーは

一、停戰協定に反對す

二、南京政府を打倒す

三、勞苦大衆を武裝して民族革命を起す

四、工農兵聯合會議を組織す

五、工農兵聯合會議は軍閥の財產及び日貨を沒收し民衆に分配す

六、八時間勞働を實行す

七、一切の酷稅を取消す

八、政治犯を釋放す

の八大要綱を列記してあり、その他朱德其他の署名した、「中國ソヴエート臨時政府の宣言」も撒布されてゐる、これを以て見れば馮一派の活動には豫想外に共產的色彩濃厚で背後に赤露の魔手がのびつゝありと思はれ當地支那軍當局では眞劍に狼狽の色を呈して來た

# 馮隱退決意か

## 笛吹けど踊らず

（北平十日發國通）北支政權の奪掌を企圖し抗日反蔣を叫んで起つた馮玉祥は笛吹けど踊るものはなき有樣に遂に察哈爾方面に隱退を決意した模樣である

## 人事往來

▲岐部與平氏（滿洲國哈爾賓郵政局長）十日午後三時二十五分來京

▲成澤大佐（鐵道第一聯隊長）十日午後六時五十五分發四平街へ

▲坂垣少將（前奉天特務機關長）十日午後七時五十分奉天より來京

▲鮑觀澄氏（前駐日公使）十日午後十時發大連へ

▲齋堂中佐（陸軍技術本部附）十一日午前八時來京

團体

▲東亞同文書院學生四十名十日午後三時二十五分奉天より來京

▲大阪港區小學校長團杉原富太郎氏外九名十日午後九時吉林より來京

▲東京府立第一商業學校生中村教諭外四十名十日午後十時發奉天へ

# 王道樂土を慕ふて 故國から脫出

## 八十名が打伴れて滿洲入り

## 暗黑のロシアを語る

（ハルビン十日發國通）沿海州よりこの程約八十名のロシア人が滿洲國領內に脫出して來たが、右の內過去六年半牢獄生活して苦しんだといふ某ロシア人が來哈したが、同人は大要左の如く語る

自分は新經濟政策が遂行されてゐた當時の貨幣を隱匿してゐたといふ廉で一九二九年モスクワで

『投獄』されたが、その牢獄では僅か二十名位しか收容出來ない一室に五十八九名ブチ込まれてゐた、同罪人が激增するに伴ひ監獄で收容しきれない樣になると多くの者はシベリアへ追ひ拂はれてゐたが、ゲ・ペ・ウに於ける審問は實に言語に絕するものがある、例へば官憲の取調べに對し即答しないと夜間就寢せしめないとか毆打するといふ有樣で、ゲ・ペ・ウのために毆り殺された者も十二名程その當時あつた、我々は約二ケ月半の

『時日』を費して後沿海州に護送されたが、途中の食糧はお話にならず一椀の湯を四十人に與へ車中で餓死しても死骸をその儘放任し、チブスのために死亡した者も十八名程あつた我々一行は千二百名あつたが其の內途中で死亡したものは四百七十名の多數に達した、目的地に到着すると第一に死亡した仲間の埋葬を命ぜられたが一月の殺人的嚴寒の際の穴掘り工作は地下が何尺となく全く石の樣に凍結してゐるので容易でなく、

『作業』が遅々として進捗しないと言つては減食され收容所の設備と來たら、これまた例へやうがなく、凍死するもの、病死するものは增加し當時四十パーセントの死亡率を示してゐた、一九三一年には凍傷にかゝつた者は患部の腐れから遂に死亡するのを恐れて仲間にデバ庖丁で患部を切斷してくれと淚を流して頼む者もあつた程悲慘であつた、この生地獄より脫走を企て赤軍のために射殺されたもの又は自殺するものも多數あつた、ハバロフスク、ブラゴエシチエンスク、ウラヂオ等の

『都市』には赤軍が駐屯して反動分子を彈壓してゐるが一歩村落に入ると反官の空氣は極めて濃厚である、農民は農作物を四苦八苦、全く命懸けで官憲の鋭眼をかすめ隱匿してゐる者が多いから割合に喰ふには困らないが都會の物資の缺乏は甚しく役人ですへ內々悲鳴を擧げてゐるのは事實である、月足らずの子供を產む女が多い、右のやうな狀態から王道樂土の滿洲國を目指して嚴重な國境警備の赤軍の目をかすめ命懸けで國境を

『突破』せんとするものが多い、今でも滿露東部國境に農作しつゝ國境を突破せんと時機を狙つてゐる者が約二百名程ゐる、滿露國境方面の滿洲國の農民は實に親切で我々が國境を突破した時も我々を自家で庇護して呉れた我々にとつては全く命の恩人で、生涯忘れることの出來ない事と常に感謝してゐる

## 文教月刊 愈々近く發刊

全滿教育機關の連絡を計るため文教部より發刊される文教月刊は諸般準備全く整ひ愈々本月十五日創刊第一號を出すことになつた、尙同月刊の卷頭は鄭總理の創刊の辭を以て飾られる事になつてゐるが、以後引續き毎月一回十五日に發行される

# 歸還兵と傷病兵 歡迎裡に凱旋

## 御用船で宇品へ

（大連十日發國通）大連で戰塵を洗ひつゝも凱旋の日を待つて居た〇〇隊歸還兵四百八十三名及衞戍病院で手當を受けつゝあつた名譽の傷病兵士官大尉以下百三十五名は御用船で盛んな市民の見送を受けて十日午後五時大連出帆一路宇品に向つた

# 吃驚仰天

## これは危い！ 手榴彈を弄ぶ
### 何知らぬ少年の拾ひ物　それと知れて大騷ぎ

九日午後二時十分頃車中整理の爲新京驛に停車中の輕油動車三四六號に車掌喜多貞男君が乘込んだ處

＝新京＝　室町小學校三年の山田榮田の二少年が手榴彈をタオルにまいて弄んでゐるのを發見してビックリ仰天直ちに沒收したが、他の乘客五十餘名も之に氣付いて大騷ぎとなつたが、事なく鎭まつた、驛では十日午後四時頃憲兵隊に屆出た係員等が召喚嚴重取調中であるが、二少年の申立では、九日午後一時頃大和ホテルの裏通りで拾つたと言ふのみで憲兵隊では時節柄首都新京を目指して潜行暗躍する不逞分子の仕業ではないかと

＝內偵＝　を續けてゐる、因みに手榴彈は支那軍使用のもので相當強力な破壞力を持つてゐるらしく目下專門家の手で鑑定中である

## 修養團の講習
### 蓮沼主幹を迎へて　近く南嶺兵舍で

既報の通り田邊治通筑紫熊七宇佐美勝夫、小磯國昭、荒木章の諸氏が發起となり修養團主幹蓮沼門三氏を中心に十日午後四時からヤマトホテルで日滿各界の代表百余名集まり懇談會が催されたが席上滿洲修養團設立の披露があり尙來る二十二日から四日間會員を全日本及び滿洲に募つて第五十三回修養團講習を滿洲國新京南嶺舊兵營で開くこととなつた其要項は左の通り

一、講師　修養團主幹蓮沼門三同常務理事二木謙三滿洲修養團教務部長坂本昌之

一、會費……金八圓也

一、會員……一百五十名、內地、朝鮮及滿洲の日滿兩國人より募集

一、會員……資格二十才以上の男子

一、申込……內地は、東京市澁谷區千駄ヶ谷四丁目、修養團本部講習係

朝鮮は、京城青葉町、修養團朝鮮聯合會

滿洲は、大連市山城町七、修養團滿洲聯合會、新京事務所社會係

一、申込締切……昭和八年六月十日（滿洲）

一、旅費……自辨とす、（滿鐵社員外會員八鐵道乘車賃五割引ノ見込）

滿洲修養團發團式及滿洲大會

一、日時……昭和八年六月二十五日午後二時

一、會場……新京室町小學校講堂

一、式次第……（顧問推戴ナド含ミ別ニ定ム）

一、大會……式ニ續キテ擧行ス

## 新京署の定期射擊大會
### 柳田氏が第一位

新京署の定期射擊大會は既報の如く九十兩日に亘つて陸軍射擊場で華々しく擧行された成績は左の如くである

七六　柳田　七四　牧野
六八　佐伯　同　園田
六六　中村正　六四　深澤
六三　乾　同　池邊
同　井田　六二　富田
六一　巾田　同　荒瀨
同　朴顧考（以下略）

## 建國を壽ぐ 新京大運動會
### プログラム決定

來る十八日擧行される建國記念新京大運動會プログラムは左の通り決定した

プログラム

一參加者並役員集合
二國旗掲揚並國歌合唱
三建國記念運動會歌合唱
四開會之辭　會長（滿語）
五建國記念運動會歌（日語）
六參加者並役員着席
七徒手体操全新京學校合同
八舞踊　長春縣女子中學
九同　西廣場小學校
十　八百米リレー第一豫選
十一　第二次豫選
特別市團体
十二ラジオ体操全新京學校
女子合同
十三劍道野試合新京商業學校
十四亞鈴体操特別市學校
十五綱引頭滿溝學校合同
十六舞踊　室町小學校
十七八百米リレー新京体育聯盟各部對抗リレー
十八舞踊市立女子高等小學校
十九同　華文女子中學
二十騎馬戰室町小學校
二十一四百米リレー全新京學校合同（參加男女人員六十四名）
二十二舞踊西廣場小學校
二十三同新京女學校
二十四八百米決勝特別市團体對抗
二十五ラジオ体操全新京學校男子合同
二十六參加者並役員集合
二十七賞品授與
二十八國旗降納並國歌合唱
會集一同二十九閉會之辭會長三十萬歲
番外プログラムとして中食中

# 夏宵は夜店へ
## 吉野町、三笠町ともに早くも大賑はひ

晴雨さだめなかつた空模樣もどうやら安定し、それと同時に本格的の夏がやつて來て暑氣は日每に加はつて行くやうだ街では草は伸び、木の葉が白く裏を見せるやうな

＝炎暑＝　の日が訪れるであらう、途中で蒸られるやうな酷熱に喘ぐ日が來るであらう、永い夏の日は暮れてもなかなか暗くならず、北滿にあるといふ白夜のやうな宵がつづく、だがしあはせにも晝の灼くやうな暑熱も夕陽が遙かな廣原の涯に沒ずる頃からソヨソヨと吹く大陸風はまだ涼しいものである、これあるがため滿洲に住む人は晝の地獄の苦しみにたへればこそ夜は全く極樂である、しかも涼を趁ふてやまぬ市民は日が暮れたら

＝殆ど＝　悉くが街へくと溢れ出る、お蔭で賑ふのは吉野町や三笠町の夜店双方とも未だ豫定の設備は整はぬがもうこの頃は每夜苹を洗ふやうな混雜であるから眞夏の宵が思ひやられる

## 悲み新たに
### 憶ひ出多き密雲で　西部隊の慰靈祭

（密雲十日發國通）皇軍北支進出の最激鬪古北口より密雲戰線を突破した西部隊は激戰の憶出多き密雲戰場に於て十日午後一時戰死者小牧步兵少佐以下二百二十名の追悼會を催した、折から

＝曇天＝　雨さへ加りて悲しみ新たに戰場の小學校では激戰を物語る砲彈の跡さえある、祭壇には白布に包まれた二百二十名の英靈靜かに眠り英靈を呼ぶ旌旗颯々たるものがある午後一時西將軍は鈴木、川原兩團長及び幕僚を從へて入場各地から集つた將兵〇〇〇名獸々として之を迎へ續いて北平からわざわざこの慰靈祭に林書記官、小管民會代表が來たが滿洲國警備司令等が之に續いた戰友の血をすすつた周圍の山河は悲しくも沈默して物音一つ聞えない、西將軍はやがて

＝悲痛＝　な哀悼の辭を讀み始めた老將軍の臆は部下を思ふあまり淚溢れてうるほいを帶びた聲が邊りに響き渡つた、續いて兩將軍鈴木、川原兩少將及び來賓の弔辭燒香の後一同淚の中に敬禮、慰靈祭典は午後二時過ぎ完了した

# 流行小唄と舞踊の夕べ
## 淡谷のり子、中野忠晴、花柳壽滿
### 十二 十三 兩日長春座で
主催 新京日日新聞社

## 淡谷孃一行乘込に 華々しい歡迎
### 今夕一流女給さん總出で

十二日午後七時から本社主催の下に長春座で催す「流行小唄と舞踊の夕べ」に出演する淡谷のり子孃、花柳壽滿女史中野忠晴氏和田肇氏の一行は今日十一日午後六時五十五分着の列車で當地に來着する、既報の通りダンスホールキャピタルのダンサー、サロンモナミの女給たちカフエーミス東洋の國際始め女給たち新京會館のダンサー連盟踊關係の花柳界の人々は打揃つて驛に出迎へ一行の華々しい乘込みに更に花を添へその他コロンビアレコード販賣店の新京蓄友倶樂部員或は未知のファンなどが驛頭に歡迎し不時の賑ひを呈することであらう、一行は十一日は奉天で終日休養する筈の處を一日繰上げ來京するので各方面からの招請なども最寄りの森洋行、金泰洋行、小岡樂器店、平本洋行、赤木洋行等で便宜同額の優待券を代賣してゐる、第一日のプログラムは

第一部中野氏のテノール私の太陽よ、月の出、愛のさゝやき、花柳孃の新舞踊淡谷孃のソプラノ二人の戀人なつかしきカロライナホノルゝ、ブール、和田氏のピアノ伴奏△第二部中野氏の旅がらす、山の讃歌、サーカスの歌、淡谷孃のビルの雨、さらば上海、十九の春、ほんとにさうなら、花柳孃の舞踊保名狂亂△第三部中野氏の大連行進曲、淡谷孃の高原の歌、歡喜の唄、五色咲りの下に、德崇シャンソン、花柳孃の舞踊、淨草の唄、中野淡谷混聲二部合唱アリランの歌丘を越へて、日本國民歌、それから淡谷孃の唄、花柳孃の踊で滿洲博宣傳のミス滿洲がある

## 開演は愈よ明夜！

とは來着の上で決定するが「流行小唄と舞踊の夕」は明十二日午後六時半開場、七時開演に變更は無い因に本紙愛讀者優待割引の一圓五十錢劵は本紙に添へて洩れ無く配達せすばらしく前人氣で場席の豫約申込みが頻々さあるが大衆のためそれをことわつて、早いもの勝ちに座席を占めらるやうにしてあるから若し遲れて滿員となつた場合は第二日に入場して貰ふより途は無いと係員は云つてゐた

（寫眞は花柳壽滿女）

## 廣島の窃盜
### 新京で捕はる

長崎縣生れ北門外東三馬路公館堂伊藤次郎方止宿野口虎次こと虎雄（二〇）は廣島警察署から窃盜犯人として手配中の處十日午前十時新京署員に檢擧され身柄を總領事館に送致された

## 城內に三人强盜

十日午後九時四十分ごろ城內東三道街滿將家屋十五號倒萬金氏方へ三名の强盜が各自拳銃棍棒、棍棒を所持して押入り家人を脅迫し「拳銃を出せ」と強要したが銃がないと云ふや賊は箪笥內から金指輪四個を强奪逃走した

假裝行列、體操、高脚其他餘興番組中に一般來賓競走を適宜挿入す

## 松阪屋の美擧
### 名古屋市の社會事業費に　百萬圓を投出す

（名古屋十日發國通）今春名古屋商工會議所會頭を辭し一切の公職を退いた伊藤次郎左衞門氏は大岩市長を訪問、百萬圓を投げ出し社會事業に寄付し度い旨を申出た、右は現金五十萬圓、松坂屋株五十萬圓で、市長は氏の德行を謝し少年保護事業、隣保事業、釋放囚人保護等社會事業の資に充つることになつたが、天下の各富豪がインフレ景氣に醉つて社會事業を顧みざる折柄珍しき美擧として賞讃されてゐる

## 石井漠氏舞踊會

大連女子技藝學校同窓會主催同校基金募集石井漠氏新作舞踊發表會は十二十三の兩夜七時から新京高等女學校講堂で開催され石井氏一門が漠氏新作十數番を公演する入場料一圓五十錢前賣券一圓であると

## 前澤稻子孃舞踊會

新京日報主催前澤稻子舞踊會は十一日午後七時から高等女學校講堂で開催三部十八番の舞踊がある入場料五十錢

## 新京大勝
### 對滿洲國野球戰

滿洲國野球部對新京倶樂部の第一回定期野球試合は十日午後四時三十分から西公園グラウンドで小磯參謀長の試球式で滿洲國先攻で開始された、六アル八對一で新京倶樂部軍大勝した、時に午後六時三十分審判長澤（球）石岡（壘）兩審

## けふの庭球大會
### 快晴に恵まれ大賑ひ

西山運動具店並新京体育聯盟主催新京日報及本社後援の下に開催した本年劈頭の庭球大會は既報の如く十一日午前九時より初夏の新綠薫る滿鐵コートに於て華々しく開會したこの日稍々風は强氣味であつたが近頃に珍しい日本晴の快晴は今日の優勝を競ふ若人等の頭上に輝き渡り定刻前年の優勝者A組岸川、手島、B組優勝者は不參加の爲加藤氏かはつて拍手裡に優勝カップの返還を行ひ得丸理事の開會の辭あつていよいよ試合はB組によつて初められた、時に九時三十分第一回の戰況左の如し

第一回戰

| | | | |
|---|---|---|---|
| （中山中條） | 〇―三 | （和田山元） | |
| （穠本山下） | 三―〇 | （田島峯） | |
| （森內土田） | 一―三 | （菅村） | |
| （西岡小林） | 一―三 | （貞森小林） | |
| （毛利田原） | 二―三 | （中野） | |

## 興安總署勝つ

新京スポンヂ協會主催の春季リーグ戰第一回民政部（B）對興安總署の試合は十一日午前九時から舊グラウンドで井上（球）立島（壘）二審判の下に民政部先攻で開始された、壓倒され十五對二で五回のコールドゲームとなり興安總署凱歌を揚げた閉戰十時、兩軍バッテリー得點左の如し

興安＝小島、淺野、民政＝宮森、張

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 興 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 15 |
| 民 | 3 | 5 | 7 | 0 | | 2 |

本壘打　小島（興安）
三壘打　小〇（興）王（民）

「バッテリー得點左の如し
▲滿洲國側、赤木、水原（投）森川（捕）
▲新京倶樂部、高橋（投）古賀（捕）

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 滿洲 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 新京 | 4 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6A |

## 滿洲國柔道部
### 猛練習開始

滿洲國柔道部では昨夏奉天滿鐵道場主催の柔道大會に於て全滿各地の諸豪を見事一蹴して以來、尙一層完璧を期しつゝあつたが再び來る六月十二日午後二時より新京警察署道場に於て猛練習を行ふ事となつた

## 新京飲食店組合 慰安野遊會

既報の通り新京飲食店組合十餘軒約一千人の大家族會は十二日午前十時から西公園夕陽ヶ丘で開催種々の余興なども あり全從業員が一日の慰安と懇親をはかるので十二日一日だけは晝夜とも新京中どこへ行つても休業であるから少なからぬ不便の一日である

幕末異聞

# 愛慾火箭

（八十一）

作　瀧川駿　畫　村瀬洗舟

天城越え（一）

櫻田門外で井伊大老の首級を擧げた、水戸浪士の内の増子金八は京都に向つて逃走したが、石部の宿で捕へられ、今、江戸表へ護送される途中であつた。

「おや？」

鴛籠を跟けてゐた、與四郎の口から驚きの聲が洩れた。と言ふのは増子を乘せた鴛籠は、東海道を三島の宿はずれから逸れて、修善寺の方面へ這入つて行つたからだ。

「下田へ行くのかな？」

與四郎は首をひねり乍ら、尙も鴛籠を追つて行つた。

——そしてその數日後、伊豆下田奉行の役宅を出た三挺の鴛籠があつた。一挺は例の増子金八を乘せた鴛籠であるが、續いた鴛籠には水戸浪士、阿部三十郎と書いてあつた。

「はゝん」

與四郎には、それはすぐ呑み込めたが、判らないのはその次の鴛籠であつた。

佐原無宿、忍び治作、斯う書いてあるのであつた。

鴛籠を追つて、下田街道中での難所、天城峠へさし掛つた。

天城山の嶮を境にして、表伊豆と裏伊豆とに分られてゐる。その中を細くくねつた道、それが伊豆の本街道である。

南の大川端と呼ばれてゐる地から、山向ふの湯ケ島まで、峠の一軒茶屋をはさんだ三里の里程、それが俗に天城越と呼ばれてゐる難所な道である。——險峻な上に道幅が狹く、一人歩きが漸くであつた。だがそれでも本街道なのである。

たとへお家行列の大國でも、此處では行列を崩してバラ／＼に成つて、身一つで漸くに通れると言ふ狹い道。それ故どんな重罪人でも軍鴛籠に入れたまゝ擔ぎ越す事は迚も不可能なのであつた。で、是非なく鴛籠から出して歩かせるのである。で、この間三里を、俗にお目こぼし街道とさへ呼ばれてゐて罪人の身内の者が會ふ事を、內々赦されてゐた。すれ違ふさまを裝つて、名殘を惜しませ、御牢内で最も必要なツルの手渡しをさせるといふ便宜さへ出來てゐた。

この時、大概身内の者は、高い案内料を土地の者に拂つて、この本街道に並行した間道、俗に山藝道とも隠れ街道とも言ふ道を、取る事になつてゐた。

知る人の少い間道は、隠れ街道と呼ばれる程、人目に觸かない道で、本道に接近してゐる處もあれば、隔絶してゐる處もある。入違ひの處、木立に隠れ、或は岩蔭に隠れ、或は本街道を見上げる處もあれば、見下す處もあるのであつた。——作者昨年盛夏伊豆を旅行した時「はゝん此處か？」と思つた。が、それは作者の想像外の難道である。

「旦那、斯うおいでなせえ」

與四郎は、土地の馬方、源六に案内されて、この間道を傳はつてゐた。

霜月だといふのに、此處は暖い、まるで九月頃の陽氣である。山峡溪には日向を選つて、甲羅の赤い澤蟹が這つてゐた。

椎茸畑の中を、啄木鳥の啄音を聞きながら、谷川の丸木橋を渡り、飛石を傳へ、岩蔭の間を縫り、二人は縫つて行つた。

源六はどんな嶮崖でも、まるで平地を走るやうに、さん／＼と歩くが、與四郎は甚だ足下が危ない、幾度となく踏み損じて、精著を掻がした。

「旦那、その罪人と言ふのは、どこの無宿で何と言ふ人でござんす？」

「無宿？　罪人？　あゝ、無宿と言へば無宿。罪人と言へば罪人だが、元は水戸の藩士とした武士で、わが日の本の行末を案じ身を捨てゝ井伊大老を殺害した増子金八殿だ、阿部三十郎殿も一緒のやうに見受けた」

その時、とある岩蔭で、山越人足の叫び聲が聞えた。

---

六月二十日　月曜　巳酉　赤口　平　危宿

●一白の人　中途にして挫けざる樣注意して進むべき日　辰と未と酉が吉

●二黒の人　浮かさ人の誘ひに乗る時は意外の失敗あり　丁と辛と丑が吉

●三碧の人　時々理に厚情を受けて事業發展する最良日　丙と申と壬が吉

●四緑の人　奇策妙案は却て事を損ず地味に働くが吉し　巳と坤と癸が吉

●五黄の人　進路は塞り活氣は殺れて自由の利かざる日　酉と亥と艮が吉

●六白の人　悦びの中に悲みの潜み居る日十分は望むな　甲と未と戌が吉

●七赤の人　氣を締め實直に働けば思ひしより功果生ず　丁と申と辛が吉

●八白の人　午前中は宜しけれど午後は惡化の兆候注意　卯と辛と戌が吉

●九紫の人　秩序大切に進む時は次第に吉運に向ふべし　巳と丁と亥が吉

---